

《休日の過ごし方》

年末年始の休みには、いつも本を用意する。何年か前、20冊以上の“美味しんぼ”を読んだ。今年を用意する時間もなく手許のカミュトル・カレ（何と支離滅裂！）に頼り、その合間にドミンゴとパパロッチェに癒され（何と古い！）マーラーとベートーベンに勇気づけられる。飽きると大晦日の雪かき。肉体労働はいい。全てが空っぽになる。庭仕事や手仕事が好きなのもそのため。（やがて美しく仕上がるという喜びも加わる）歩いていたり、単純仕事をしているとふと心に浮かぶ物事も楽しい。どこかに出かけるのも良いが、家にいてのこれらの休日は心安らぐ。これに加えて、フルートの練習も加われば最高！となる。

《私はめんくい》

私はメンクイである。麦のつく方のメン。麺なら全てよい。でも乾麺には困る。と云ったら、料理得意の私のスタッフがバットで麺をしばらく水に浸してから調理すると弾力も出ておいしくなると教えてくれた。ちなみに私は今、ベトナム・フォーに凝っている。最後にお酢を少々加えるのがコツ。

《前世はアフリカの酋長？》

～ 木彫りの動物たち ～



私は古代アフリカ、フィレンツェルネサンスが大好き。前世があるなら白いターバンの砂漠の酋長か、フィレンツェの小さな工房見習いだったのかも。古代アフリカのミュージアム・グッズの彫像は優に5個は持っている。一番のお宝は、アフリカのどこかの草原の木の下で拾った乾燥した果実や、巨大えんどうのような葉。キリンはどんな貴婦人よりエレガント、かつ優しい眼をしていた。一方ルネサンス彫像の冷徹で知的なまなざし、現実性とは裏腹に官能的なまでの肉体とおおらかな人間愛、と又その裏の血なま臭さ。

《古代ローマンガラス》

と、いうわけなのか、私は古代ローマンジュエリーが大好き。ガラスは紀元前1000年紀のフェニキアで確立されていたのです。そのうちローマンガラスと一般的に云われているのは、紀元をはさんで前後数百年と云われています。元来、装身具は魔よけであり、お護りだった。ダイヤ・ルビーが使われるようになってからもそれには変わりはない。（但し、やがて権力の象徴になるのだが）

古代ローマングラスジュエリーを使って今のジュエリーにしてみたい。常々そう思っていた。思っていたら出会って、ムラムラ～と買ってしまった。さあ、それからが大変。秋からずーっと悩んでいる。で、正月休みはほとんどそれらをいじりつつ、やっと制作にとりかかれたのだ。

’05 I J T へのお披露目は叶うのか？

《古代ローマングラスの壺》

ローマングラスとは、B.C.27年～A.D395年にローマ帝国内で製造、流通したものをさす。

写真の壺は、アフガニスタン発掘。型押し、石膏法、中には24金箔をはさんで2度、3度と焼いたものもある。



～ 相変わらず人気
「宇宙の癒し」シリーズ～



I J T 出展ブース
 デザイナー・クラフトマンバビロン
 A16-56

《お詫び》

BIZ NEWS No. 4にて、素敵なショップ「デザインルーム・アポロ」の電話番号を誤って掲載してしまいました。正しくは 072-757-6556 です。大変ご迷惑をおかけしました。